

# 第47回 獣医学セミナー

## 微生物の運動と病原性との関連性

清水 隆 先生  
(獣医公衆衛生学)

2014年 1月22日 (水)

17:00-18:00

農学部6番教室

多くの生体は運動を行う。最もよく知られる運動。このアクチンとミオシンによる運動は多くの細胞でみられ、好中球などの貪食細胞が微生物を捕食する際の運動や、アメーバをはじめとする多くの真核微生物や寄生虫などで利用されている。また、アクチンは細胞内に感染する細菌の運動にも利用されている。研究が進んでいるもう一つの運動に微小管によるものがある。微小管は鞭毛を形成し、真核微生物や寄生虫、精子など様々な細胞の運動に関与している。一方、細菌でもっとも知られる運動はべん毛によるものであるが、真核生物の鞭毛とは全く構成タンパク質が異なり、別の物として区別されている。これらの運動の他にも機構が解明されていない様々な運動様式が存在している。本セミナーではそのような細胞や微生物の運動をビデオを用いて紹介したい。

またこれらの細胞運動の機構は、現在多くの研究者によって研究され、その機構が解明されつつあるが、それらの運動の環境中における存在意義や、病原性への関与などはほとんど解っていない。我々はマイコプラズマという肺炎を起こす細菌が引き起こす炎症反応に、マイコプラズマの接着・運動能が深く関与していることを見出した。我々の結果は微生物の接着や運動が病原性に深く関与することを示しており、これらの結果をあわせて紹介する予定である。

\* 飲み物・おやつを用意しますので、気楽に御立ち寄りください。

連絡先 加納 聖 (5883) 清水 隆 (5895)